

## ■ 平成16年度事業概要 ■

### I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料）	4,467点
●購入図書・雑誌	1,372点
●その他の購入特別資料	111点
●レプリカ作成・VTR、テープ、CD	3点

（別掲の統計・資料編資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存 収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等  
閲覧 利用者 延べ 3,141人

### II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

#### 1 展覧会事業

##### (1) 常設展「北海道文学の流れ」

会期	通年
会場	北海道立文学館常設展示室
入場者	8,396人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、常設展示室内に開設している特設コーナーでは、「文学館所蔵書画展」を実施した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔 〕内は監修者名を示す。

##### 〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・S・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在任期の足跡を概観した。

##### 〈北海道文学の流れ—明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

##### \* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

##### \* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

##### \* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橋智恵子、野口雨情ほか

\* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

\* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

\* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

\* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）—吉屋信子、宮本百合子、橘外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ—昭和前期〉〔小笠原克〕

\* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

\* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

\* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

\* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

\* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ—昭和後期〉〔神谷忠孝〕

\* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

\* さまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

\* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

\* さまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

\* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

\* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔原子修ほか〕

\* 北海道の詩の黎明—20世紀前半—

吉田一穂、小熊秀雄、更科源蔵、伊藤整ほか

\* 現代詩人の台頭

和田徹三、河邨文一郎ほか

\* 日本の詩界での活躍

上林猷夫、桜井勝美、風山瑕生、武田隆子、原子修、鷺巣繁男ほか

\* 新しい詩と詩論の展開

北海道詩人協会の創設、道内詩誌の現況、各賞受賞者

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

\* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

\* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

\* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

\* アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

\* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

\* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

\* 花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか

\* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

\* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、  
田中五呂八ほか

\* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

\* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

\* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

\* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

\* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 企画展・特別企画展（※印の事業は財団の独自企画のものを示す）

●特別企画展「写真家掛川源一郎の20世紀」

会 期 平成16年4月24日（土）～6月20日（日）（58日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 4,556人

写真家・掛川源一郎は室蘭生まれ。高校教師のかたわら、北海道の風土と庶民を長年にわたって撮り続けた。その中で、1950年代後半から70年代にかけて氏が撮影した作品157点を展示した。北海道各地の人々の暮らしや自然がモノクロームの世界に凝縮されている氏の作品は、当時の様子を知らしめるのみならず、現代に生きる我々に多くのことを語りかけてくる優しさと厳しさがあふれ、多くの観覧者を集めた。

●特別企画展「更科源蔵生誕100年 北の原野の物語」

会 期 平成16年7月24日（土）～9月26日（日）（65日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 1,903人

北海道を拠点に終生文化的営みを続けた詩人・更科源蔵の幅広い仕事のうち、特に戦中から戦後にかけての活動を紹介した。詩作品を核としつつ、郷土史執筆やアイヌ文化保存活動、詩誌編集活動などを展開した氏の業績は、北海道の文化、歴史、芸術の各分野で今なお大きな影響力をもつ。北の風土が生み育てたたぐい稀な詩人の足跡を、生誕100年の年に再認識した展示であるとの評価を得た。

※企画展「アイヌ語地名を歩く－山田秀三の地名研究から－」

会 期 平成16年10月30日（土）～11月28日（日）（26日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 2,047人

北海道立アイヌ民族文化研究センター主催、道立文学館共催。アイヌ語地名研究で知られる山田秀三の研究資料をもとに展示を開催した。氏が地名研究・現地調査に用いた資料や書き込みのある地図、撮影写真、調査後のファイルなどを通して、その調査の足跡をたどった。短期間であったにもかかわらず、多くの観覧者を集めた。

●企画展「仙花紙からの出発～雑誌に見る『戦後』の姿～」

会 期 平成16年12月4日（土）～12月26日（日）（20日間）  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 576人

戦後の言論統制の解除は国内に空前の出版ブームを巻き起こした。北海道でも活発な出版活動が展開され、1947年5～6月の北海道出版文化祭は、その頂点を示すといわれる。敗戦と復興の時代を映してきた雑誌を主とする出版物約550点を展示・紹介した。仙花紙（粗悪な再生紙）で作られた雑誌群に、戦後の混乱から立ち上がろうとする人々のたくましいエネルギーや、大きな犠牲を払って手にした「自由」と「平等」の大切さ、そして「平和」への希望を確かめる展示であると評価を得た。

※企画展「北の風土の批評精神 発生と展開～風景次郎から小笠原克へ～」

会 期 平成17年2月26日（土）～3月27日（日）（26日間）  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 580人

戦後北海道の批評研究活動は、後に「評論王国」と称される高まりを見せた。その礎石を築いた風景次郎と、門下に当たる和田謹吾、安住誠悦、近藤潤一らの活動、また、「位置」「北方文芸」を主宰し北海道の文学界を牽引した小笠原克と、高野斗志美ら多くの論客による研究成果を紹介した。さらに、これらの成果をベースに、その後日本全域へと発信された後続世代のエネルギッシュな評論批評活動の一端も紹介した。

2 教育普及事業

(1) 文芸講演会（会場はいずれも北海道立文学館講堂）

- ① 演 題 「文化フロンティアとしての北海道と沖縄～目撃者・掛川源一郎～」  
講 師 今福 龍太（札幌大学教授）  
日 時 平成16年5月8日（土）14時  
入場者 81人
- ② 演 題 「北の文学を語る」  
講 師 原田 康子（小説家）  
日 時 平成16年7月24日（土）14時  
入場者 82人

(2) 文芸セミナー（いずれも北海道立文学館講堂）

- ① 演 題 「更科源蔵と札幌」  
講 師 森川 勇作（ジャーナリスト）  
日 時 平成16年9月11日（土）14時  
入場者 59人
- ② 演 題 「プロの技を学ぶ！～イラストレーションの技術と実際～」  
講 師 早川司寿乃（イラストレーター・絵本画家）  
日 時 平成16年10月3日（日）14時  
入場者 40人

- ③ 演 題 「北海道における戦後出版事情」  
 講 師 出村 文理（書誌研究家）  
 日 時 平成16年12月11日（土）14時  
 入場者 46人
- ④ 演 題 「文学研究と批評精神」  
 講 師 菱川 善夫（歌人・国文学者）  
 日 時 平成17年3月5日（土）14時  
 入場者 67人

(3) ※文芸講座等

- ① 演 題 「写真家掛川源一郎の仕事をめぐる」  
 講 師 吉田ルイ子（写真家）、大日方欣一（写真史研究家）  
 日 時 平成16年6月6日（日）15時  
 入場者 106人
- ② 演 題 「木野花トークとリーディングの会」  
 日 時 平成16年7月9日（金）18時30分  
 出 演 木野 花（演劇家）  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 入場者 58人
- ③ 演 題 大人のための創作講座「今こそ川柳だ」  
 日 時 平成16年7月19日（月・祝）14時  
 講 師 斎藤 大雄（北海道川柳連盟会長）  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 入場者 27人
- ④ 演 題 「<更科源蔵 滞京日記>を読むっどい」  
 日 時 平成16年9月19日（日）14時  
 講 師 神谷忠孝（当館理事長）、平原一良（当館学芸副館長）、青柳文吉（当館学芸課長）  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 入場者 24人
- ⑤ 演 題 「アイヌ語地名研究をめぐる」  
 日 時 平成16年11月3日（水・祝）14時  
 講 師 萩中美枝（アイヌ口承文芸研究家）、切替英雄（北海学園大学助教授）  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 入場者 120人
- ⑥ 「北の風土の批評精神－テープを聴く会－」  
 日 時 平成17年3月12日（土）14時  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 入場者 78人

(4) 映像作品鑑賞のつどい（会場はいずれも北海道立文学館講堂）

- |       |              |
|-------|--------------|
| ① 作 品 | 「女ひとり大地をゆく」  |
| 日 時   | 4月18日（日）14時  |
| 入場者   | 84人          |
| ② 作 品 | 「飢餓海峡」       |
| 日 時   | 7月11日（日）14時  |
| 入場者   | 95人          |
| ③ 作 品 | 「氾濫」         |
| 日 時   | 10月17日（日）14時 |
| 入場者   | 95人          |
| ④ 作 品 | 「丹下左膳・決定版」   |
| 日 時   | 11月28日（日）14時 |
| 入場者   | 81人          |
| ⑤ 作 品 | 「氷壁」         |
| 日 時   | 1月30日（日）14時  |
| 入場者   | 88人          |
| ⑥ 作 品 | 「ひかりごけ」      |
| 日 時   | 3月20日（日）14時  |
| 入場者   | 85人          |

(5) ファミリー文学館

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| ① 「第3期夏休み文学道場～中・高生のための創作講座～」 |   |
| 期 間                          | 平成16年7月28日（水）～7月30日（金）                                |
| 講 師                          | 加藤 多一（児童文学作家）、吉川 慶子（國學院短期大学講師）手島圭三郎（版画家）、原田 英明（当館学芸員） |
| 会 場                          | 北海道立文学館講堂   |
| 参加者                          | 延べ36人 ◎終了後に「夏休み文学道場作品集」を刊行                            |
| ② 「マジョモリ・ポエティックー早川司寿乃絵本原画展ー」 |   |
| 期 間                          | 平成16年10月2日（土）～10月24日（日）                               |
| 会 場                          | 北海道立文学館特別展示室  |
| 入場者                          | 1,925人 ◎併せて文芸セミナー（前述 10月3日、講師：早川司寿乃）を実施。              |

(6) 文学館ファミリーふれあいフェスタ・手作り絵本教室

- |                               |                    |
|-------------------------------|--------------------|
| ① 親子でチャレンジ！手作り絵本～絵本でつづる家族の物語～ |                    |
| 日 時                           | 平成17年1月5日（水）～8日（土） |
| 講 師                           | 田苗 恵（手作り絵本作家）      |
| 会 場                           | 北海道立文学館講堂          |
| 参加者                           | 延べ122人             |

② 展覧会「見て見て！手作り絵本」

日 時 平成17年1月10日（月・祝）～1月16日（日）（6日間）  
 会 場 北海道立文学館特別展示室  
 観覧者 506人

(7) ※～わくわく～こどもランド

期 間 平成16年5月～平成17年2月（原則：各月第2土曜日・計12回）  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 後 援 札幌市教育委員会、財団法人道銀文化財団  
 出 演 山の手図書館「おはなしかご」ほか  
 入場者 のべ820人

(8) ※文学館ウィークエンド・カレッジ

期 間 平成16年5月～平成17年3月（原則：各月第2、4土・日曜日）  
 講 師 柴村 紀代（児童文学者）ほか  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 受講者 のべ585人

【内 容】

（前 期）

教 科	科 目	講 師
文 学	パソコン小説作法 現代詩を読む	佐野 良二（作家） 高橋 秀明（詩人・文芸評論家）
外国文学	イタリア文学を読む ロシア文学講読	工藤 知子（イタリア文学者） 工藤精一郎（ロシア文学者）
文化論	続・アイヌ語で歌う ～熊（ヒグマ）がカムイであっ た時代（とき）～ 自分史を書く	深尾 加那（アイヌ民族文化伝承会「らぶらん」会員） 駒井 秀子（女性史研究）

（後 期）

教 科	科 目	講 師
文 学	「読み聞かせ」入門 「幸田露伴の時代」を読む 短篇小说の構造	柴村 紀代（児童文学者） 日沼 滉治（埼玉大学名誉教授） 工藤 正廣（北海道大学教授）
外国文学	イタリア語で読む「源氏物語」 ロシア文学講読	工藤 知子（イタリア文学者） 工藤精一郎（ロシア文学者）

○ ウィークエンド・カレッジ特別公開講座

日 時 平成17年2月27日（日）13時30分  
 演 題 「体験的音声表現論」  
 会 場 北海道立文学館講堂  
 講 師 館野 直光（元NHKアナウンサー）  
 受講者 65人

(9) ※文学館コンサート

① 津軽の音と声の夕べ（談話コーナー）

日 時 平成16年7月10日（土）18時

演奏等 木村善幸（太鼓・津軽三味線演奏家）、工藤正廣（詩人・北海道大学教授）

入場者 119人

② ロビーコンサート「荒木均チェロコンサート」

日 時 平成16年12月10日（金）18時

演奏者 荒木 均（チェロ）、山下由莉子（ピアノ）

入場者 77人

III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 特別企画展「写真家掛川源一郎の20世紀」関連資料調査
- ② 特別企画展「更科源蔵生誕100年 北の原野の物語」関連資料調査
- ③ 企画展「仙花紙からの出発」関連資料調査
- ④ 企画展「北の風土の批評精神」関連資料調査
- ⑤ 現代少年少女詩・童謡詩関連資料調査
- ⑥ 神沢利子関連資料調査
- ⑦ 原田康子関連資料調査
- ⑧ 特別企画展・企画展の図録・リーフレット作成に要する調査
- ⑨ 久保栄関連資料調査

IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 児童文学者協会北海道支部  
「北海道児童文学学校」（原則として4月～3月の第2、4金曜に開校 北海道立文学館講堂）
- ② 原子修・詩のあゆみ展実行委員会  
「原子修・詩のあゆみ」展  
（平成16年3月27日～4月10日 13日間 北海道文学館特別展示室）
- ③ 亜麻の会  
（平成16年4月2日、9月3日 北海道立文学館講堂）
- ④ 星座の会（有島記念館友の会）  
（平成16年4月24日 北海道立文学館講堂）
- ⑤ 児童文学学校  
特別講座「加藤多一の仕事をめぐって」  
（平成16年4月25日 北海道立文学館講堂）
- ⑥ おにやり会  
（平成16年5月11日 北海道立文学館講堂）

- ⑦ 「<緑の笛豆本>の小宇宙」実行委員会  
「<緑の笛豆本>の小宇宙～津軽が育てた夢の本～」展  
(平成16年7月1日～11日 10日間 北海道立文学館特別展示室)
- ⑧ 読書の秋・講演会  
(平成16年9月23日 札幌エルプラザ)
- ⑨ NHK文化センター朗読教室(松井信子クラス)  
公開朗読会「北海道ゆかりの文学を読む」  
(平成16年10月24日 北海道立文学館講堂)
- ⑩ 山の手図書館おはなしかご  
「大人が楽しむおはなし会」  
(平成16年10月29日 北海道立文学館講堂)
- ⑪ 「岸田今日子：チェーホフ朗読の夕べ」実行委員会  
「チェーホフ没後100年 岸田今日子：チェーホフ朗読の夕べ」  
(平成16年11月2日 渡辺淳一文学館地下ホール)
- ⑫ 小檜山博・藤堂志津子座談会  
(平成16年11月25日 章月グランドホテル)
- ⑬ プランゲ文庫  
講座「プランゲ文庫雑誌目次データベースにおける文学関係資料」  
講師：山本 武利(早稲田大学教授)  
(平成16年12月5日 北海道立文学館講堂)
- ⑭ 辻脇系一俳句会  
(平成17年2月9日 北海道立文学館講堂)
- ⑮ 高等学校文化連盟文芸専門部会  
(平成17年2月18日 北海道立文学館共同研究室)
- ⑯ 高等学校文化連盟図書専門部専門委員会  
(平成17年2月23日 北海道立文学館講堂)
- ⑰ 独立行政法人国際交流基金、財団法人札幌国際プラザ  
「開高健記念アジア作家講演会」  
講師：キム・ヨンス(韓国新世代作家)  
(平成17年3月1日 北海道立文学館講堂)

## V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行。
- ② 「北海道文学館報」第60号(平成16年11月)の編集発行。

## VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 特別企画展「写真家掛川源一郎の20世紀」図録の刊行。
- ② 特別企画展「更科源蔵生誕100年北の原野の物語」図録の刊行。
- ③ 「更科源蔵 滞京日記」の刊行。
- ④ 「北の風土の批評精神 発生と展開～風巻景次郎から小笠原克へ～」の刊行。

#### VII 北海道立文学館の管理運営受託事業

寄附行為第4条第7号による北海道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に交わされた委託契約（4月1日締結）に基づき、適切に行った。

#### VIII その他の付帯事業

- ① 博物館学芸員実習生の受け入れ  
平成16年11月に北海道大学学生15名を「博物館実習（見学実習）」で受け入れた。
- ② 古書バザールの実施  
平成16年4月～同17年3月、文学館地階ロビーで通年実施（古書バザール実行委員会）。